

Europe Indicators

発表日: 2021年8月13日(金)

欧州経済指標コメント: 4-6月期英国GDP速報

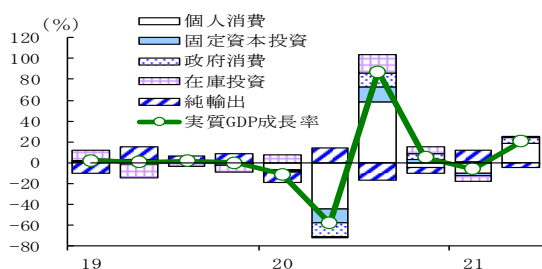
～デルタ株は懸念材料か?～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

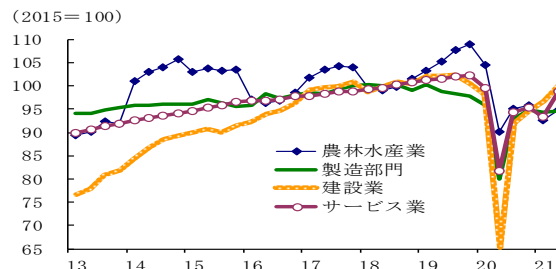
- 11日に発表された4-6月期の英国の実質GDP成長率の速報値は前期比+4.8%、同年率+20.7%と、1-3月期の同▲1.6%、同年率▲6.2%から増加に転じ、2四半期振りのプラス成長に復帰した。新型コロナウイルスの感染拡大前の2019年10-12月期の水準と比較して、まだ▲4.4%低いのが、昨年4-6月期のボトム(▲21.8%)から持ち直しが続く。
- 需要項目別には、個人消費(同+7.3%)と政府消費(同+6.1%)が成長を牽引。輸入(同+6.5%)が輸出(同+3.0%)の伸びを上回り、外需は同▲0.9%ポイントのマイナス寄与。企業投資(同+2.4%)と住宅投資(同+0.9%)が小幅増にとどまり、公共投資(同▲9.7%)の落ち込みをカバーできず、固定資本形成(同▲0.5%)全体では成長の足を引っ張った。
- 同時に発表された6月の月次GDPは前月比+1.0%と5ヵ月連続のプラス成長。5月の同+0.6%から成長ペースが再加速したが、同+2%超の高成長を記録した3・4月には届かない。6月の成長を牽引したのはサービス部門(同+1.5%)。なかでも宿泊・外食(同+14.0%)、専門サービス(同+4.5%)、健康・ソーシャルワーク(同+4.5%)、輸送・倉庫(同+3.1%)が力強い伸びを記録。製造部門(同▲0.7%)と建設業(同▲1.2%)は足を引っ張った。
- 行動制限緩和を追い風に景気回復が続くが、部品や人員などの供給制約が生産活動の足枷になっている。7月は行動制限が全面的に解除されたが、供給制約とデルタ株の感染拡大が景気回復ペースをやや抑制するとみられる。ただ、足元で新規感染者が再びピークアウト傾向にあり、ワクチン接種の進展で重症者や死者も限定的なため、景気が腰折れする可能性は低い。

■英国: 実質GDP成長率(前期比年率、%)



出所: 英統計局

■英国: 業種別GDP



出所: 英統計局

■英国GDP(前期比年率< % >、括弧内は寄与度< %ポイント >)

	名目GDP	実質GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
19/7-9月期	4.7	2.0	(▲ 2.5)	0.7	▲ 3.4	5.3	(▲ 5.2)	(4.5)	22.9	6.2
19/10-12月期	0.8	0.1	(▲ 9.1)	▲ 1.0	▲ 0.0	▲ 6.3	(▲ 1.7)	(9.1)	16.2	▲ 11.9
20/1-3月期	▲ 5.5	▲ 10.9	(▲ 1.4)	▲ 10.5	▲ 7.2	▲ 4.5	(20.8)	(▲ 9.6)	▲ 46.7	▲ 26.4
20/4-6月期	▲ 43.9	▲ 57.9	(▲ 72.0)	▲ 60.8	▲ 53.1	▲ 60.4	(102.3)	(14.1)	▲ 34.6	▲ 61.3
20/7-9月期	63.3	87.1	(103.5)	102.1	79.6	100.4	(▲ 178.6)	(▲ 16.5)	▲ 1.9	72.7
20/10-12月期	3.2	5.2	(10.8)	▲ 6.4	29.4	18.7	(▲ 30.9)	(▲ 5.7)	26.7	51.7
21/1-3月期	▲ 0.8	▲ 6.2	(▲ 16.4)	▲ 16.5	6.2	▲ 6.8	(0.7)	(10.2)	▲ 22.2	▲ 44.0
21/4-6月期	15.3	20.7	(24.4)	32.4	26.5	▲ 2.1	(▲ 32.3)	(▲ 3.7)	12.6	28.5

出所: 英統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

